

議事要旨			
会議名	第 21 回 国立市環境ネットワーク会議		
日時	令和 7 年 9 月 1 日（月） 15：00～17：00	場所	地下食事休憩スペース
【出席者】敬称略 会員団体：くにたち・まちづくり∞自転車倶楽部 末吉 氏 アートウォーキング国立 大塩 氏 ～つづく つながる～くにたちみらいの杜 前田 氏 事務局：名古屋（環境政策係長）、金子（環境政策係主任）			
【議事内容】			
1. 会長の互選について 他出席者からの推薦も受け、末吉氏が引き続き会長職に互選された。			
2. 各団体の活動報告 ○各団体より、活動の紹介・報告が行われた。			
・大塩氏(アートウォーキング国立) くにたちさくら組としても活動している。市内で伐採された樹木等を活用し、市民とともに箸、フォーク、スプーン等を作成するワークショップを定期開催している（メインは日曜日の午前中に大学通り遊園で開催）。近年は、第二小学校との協働も盛んに行っており、夏季講座（二松クラブ）を受け持ち、夏休み中に子ども達とキッズチェアを作成した。今後も校内ベンチの作成等で協力していきたい。			
・前田氏（～つづく つながる～くにたちみらいの杜） 現在は「くにたちみらいの杜プロジェクト」を立ち上げて活動している。第二小学校の新校舎改築事業に伴い伐採対象となってしまった敷地内樹木について、里親を募り移植する活動を継続してきた。他県も含め多くの賛同・協力を得て、これまで40本の樹木（その内桜が7割方）が新たな土地に移植され、7～8割が無事に芽吹いた。第2小学校に残された桜についても、生徒、保護者を中心に、環境教育の側面からも養生する活動を推進している。			
○その後、市内公共施設の改築事業や大学通り緑地帯の桜樹木の管理等について議論があった。各委員からの主要な発言、事務局とのやり取りについて、以下のとおり纏める。			
・特に学校など、市内公共施設は国立市にとって大切なみどりの拠点となっている。今後も老朽化等により改築事業は発生することになるが、自然環境を保全する観点や議論が不十分なまま、計画が進んでしまうことは避けるべきである。			
・大学通り緑地帯の桜については、兼ねてから老朽化が進展する中、伐採される個体も確認されている。市として、どのような管理方針のもと意思決定をしているのか。 →市では、平成30年度に関係者（沿道市民、ボランティア、学識者等）とともに大学通り全体計画検討会を立ち上げた。令和2年度には検討会として「大学通り緑地帯桜の管理方針」を策定し、以降はこの方針を基に更新を含めた桜の管理を進めている。方針内で定める長期目標は「今と変わらない大学通りの桜景観が守られる」こと。ほぼほぼの桜が老朽化を迎える中、計画的に更新（植え替え）をする必要もあると認識している。（事務局）			
・大学通りについては、イチョウも自然環境や景観を形成する主要素である。現在は数年に一度強剪定がされている。予算上の制約があるのであれば、増額に向けた要求はしていくべきではないか。			
3. 環境フェスタの出展内容について ○事務局より今年度も環境フェスタ（令和7年10月18日（土）10時～15時開催）に環境ネッ			

トワークとして出展し、移動式えねこやを展示する旨了承を得た。

また、移動式えねこやについては、事務局より以下のとおり説明を行った。

→移動式えねこやは、太陽光で自家発電した電力を空調・照明等に使用することで、訪れた方がエネルギーの自給自足（創エネ・省エネ）を体感できる施設である。昨年度の環境フェスタでも体験型の展示として人気を集めた。一方、多くの来場者に温暖化対策に関する問題意識を抱かせるまでには至らなかったと感じている。よって、今年度は楽しみながら学びを得られる取組みとして「たんけんシート（仮称）」を作成し、クイズ形式でえねこやの秘密（エネルギー自給自足の仕方）を探し、クリアした方にはえねこやマイスターとしてシールを渡したいと考えている。小さなお子さん連れの来場者が多く見込まれるため、このような企画とした。（事務局）

○その他、環境フェスタについて以下の意見もあげられた。

- ・例年、環境フェスタは谷保第四公園で実施してきたが、多くの市民に情報発信することを考え、国立駅前南口のイベントスペースで実施を検討してもよいのではないか。
- ・既存の環境フェスタは、ごみ減量課の主幹事業として、3Rが前面に打ち出されているように感じられる。本来「環境」は広義であり、イベントのテーマについては、立ち返って考える必要があるのではないか。

4. 国立市環境ネットワークのこれからの活動について

○会長より、環境ネットワークとしての今後の活動について、資料の説明が行われた。各委員からの主要な発言、事務局とのやり取りについて、以下のとおり纏める。

- ・環境問題に関心がある方は多いが、行動に移す方が少ない。環境ネット会議をよりオープンな議論の場にしつつ、市民向けに情報発信して行動を促す必要があるのではないか。
- ・環境ネットワークは現環境基本計画の策定時（平成25年）に組織化されたが、各団体の高齢化も進展し、特に近年は出席者が少なくなっている。新たな個人参加を募る、環境ネットワークの在り方を検討する、といった必要性を感じる。
- ・環境ネットワーク会議の位置づけとはどのようなものか。

→市民、事業者、教育機関、行政が参画した環境ネットワークでは、各環境団体の立場から意見交換や環境基本計画の進捗管理をし、環境活動を推進している。（事務局）

- ・上記に対して、基本計画の進捗管理よりも、環境ネットワーク会議に参画した団体の意見が反映されると良いのではないか。

5. 次回会議について

○事務局より、次回会議は令和8年1月を予定し、現状確定している議題は（1）環境フェスタ出展の振り返り・反省、（2）環境基本計画の令和6年度進捗報告書の報告であること、及び各団体に対しては開催1カ月ほど前を目途に開催通知を送付する旨を説明した。

以上